様式２

令和７年度　公共事業再評価調書

担当課名　　道路計画課

事　業　名	中部横断自動車道　両河内スマートIC（仮称）市道葛沢2号線	事業主体	静　岡　市
箇　所　名	静岡市清水区　葛沢地内		
事業採択年度	令和　4　年度	計画期間	令和4年度　～　令和11年度
用地着手年度	令和　6　年度	工事着手年度	令和　8　年度
再評価理由※	事業期間延長のため		

全体事業費	百万円	投資状況（百万円）	～R5年度	R6年度	R7年度見込	計
	600		60	32	39	131

事業概要

(1)事業目的

清水区の市街地と中山間地域を結ぶネットワークを形成し、高速道路への新たなルート確保による孤立リスクが解消するとともに、第3次救急医療施設へのアクセス向上が期待される。

(2)事業内容

中部横断自動車道に接続し、新清水ジャンクションから富沢インターチェンジ間の約23ｋｍにおいて出入りできない区間に設置することにより、沿線地域を含め広域的な利用が可能となる。

【視点１】事業の必要性

(1)事業を巡る社会情勢等の変化
・中部横断自動車道において、令和3年8月に南部IC～下部温泉早川IC間が開通したことにより、静岡～山梨
　間が全線開通。
・新清水JCT～富沢IC間の交通量は3年間で1,600台増加
　日平均5,400台（令和3年9月）→日平均7,000台（令和6年）
(2)事業の投資効果（費用対効果分析結果に基づくもの及びその他アピールすべき効果）
1.防災機能の強化・・・防災、住民の安全安心に不可欠な「命の道」の構築
2.救急医療活動への支援・・・第3次医療機関への搬出時間が約26分短縮(整備前約42分→整備後約18分)
3.地域利便性の控除・・・両河内地区から清水中心部へのアクセス時間約18分短縮(整備前約37分→整備後約19分)
4.観光振興・地域活性化の支援・・・観光地へのアクセス性が向上することによる観光客の増加

(3)事業の進捗状況

〇事業費による進捗率　15.3%（令和6年度末）　　〇用地取契約率　100%（令和7年9月末）

評価：継続が妥当

【視点２】今後の事業の進捗の見込み

R7年度に用地買収完了。R8年度から工事着手予定。令和4年台風15号の被災により、一部において再設計の必要が生じたこと、地質調査後の詳細設計により、切土掘削量が変更したことにより、令和９年度末から令和１１年度末へ事業期間延長となる見込み。

評価：継続が妥当

【視点３】新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性

今後の事業の実施にあたっては、コスト縮減に努力しつつ、事業を推進していく。

対応方針案

(1)対応方針案
本事業を【　　継続　　】する。
(2)理由
最近頻発している自然災害に対することのできる命の道の構築、清水区市街地と中山間地を結び、地域活性化に繋がるネットワークの形成として、市民からの期待も高いため、事業の継続が妥当と考える。